



二者面談ありがとうございました

7 月 7 日（月）～7 月 11 日（金）に行いました二者面談ではお忙しい中お時間をつくっていただき、ありがとうございました。

夏休み前のこの時期に、お子様の 1 学期の学校・家庭での様子を各担任と共有していただくことで、お子様の 1 学期の成果と課題に基づいた夏休みの生活や 2 学期の学校生活について見通しをもっていただければと思います。

塩梅

「しおうめ」ではなく、「あんばい」と読むそうです。意味としては、料理の味加減やものごとの具合を指すそうです。

たしかに、塩が濃かったり薄かったりしては、どんないい食材を使ったとしても料理は台無しになってしまいます。

では、私たちが子どもと関わる時の『塩梅』はどうでしょうか。子どもの成長段階にもよりますが、何から何までしてあげて、子どもの出番や考える機会をなくしてしまっていたり、逆に何から何まで子ども任せで、ほったらかしにしてしまっていたりしているのは塩梅がいいとは決して言えないと思います。

次のような教訓があるそうです。

乳児の時は肌を離さず

幼児の時は肌を離して、手を離さず

少年の時は手を離して、目を離さず

青年の時は目を離して、心離さず



親と子の距離感の大切さを表したものだそうです。もちろん段階を追うことが大事で、その時期に合わない時に離されたのでは、子どもは戸惑うことでしょう。しかし、子どもはいずれ親の庇護を離れ、自立する時が来ないといけません。そのための準備を少しずつしていくのだと思います。



知ル足ル

「足るを知る（たるをしる）」と読みます。意味は「与えられたものに感謝し、満足する生き方」ということだそうです。

私たちは「もっとこうしてほしい」「もっとこうなったらいいのに」という思いをもつことがあります。このこと自体は決して悪いことではなく、世の中を発展させたり改革させたりする原動力になることもあります。しかし、「もっともっと」が過ぎると、際限のない欲に陥ることにもなりかねます。

今の小学生の子たちと、50年前の小学生では随分と置かれている環境が違います。教室にエアコンが設置され、一人1台のタブレットが貸与され、学校にWi-Fiが通っています。私の小学生時代から言えば夢のような環境です。

また、コロナを契機にリモートが充実し、教室にしながら集会を開くことも決して珍しいことではなくなってきました。

学校を取り巻く様々な環境に応じ、学校の施設設備や対応も変化してきますし、これからも変化していかないといけない部分があると思います。

しかし、それは「足るを知る」の範疇に収まることで、実現することであることだとも思います。

図書ボランティアの皆さまありがとうございます

7月8日（火）の朝の読み読みの時間で1学期の読み読みが終わりました。忙しい朝の時間、出勤前の時間を割いていただき、子どもたちの情操教育に大きな役割を果たしていただいています。

学力の根幹をなすのは「国語」です。国語は「読む・書く・話す」そして「聞く」です。この「聞く」ことで言葉の意味を理解し、想像力を豊かにします。読み読みという対象が幼児や低学年児童を想起しますが、高学年の子も興味をもって聞ける子がたくさんいます。

子どもたちの教育に対し側面から関わってくださる図書ボランティアの皆さま本当にありがとうございます。



過ちを改めざること

先日、小長井町の健全育成協議会総会に出席しました。その会の中で、派出所の警察官の方々による講演がありました。また、諫早市の校長会でも諫早警察署生活安全課の講演を聞く機会がありました。

どちらの講演も「SNS 詐欺」や「闇バイト」についての内容でした。昨今のネット環境の発展でこの手の犯罪に若者が被害者・加害者となるケースが増えてきているというものでした。特に「闇バイト」については、犯罪に手を染めることになるのだという意識を十分もっておかないといけないと感じました。

「1 回くらいなら」「そう思ってなかった」「指示されたことをしただけ」「自分は悪くない」「自分も被害者だ」「こんなことになるとは思ってなかった」等々。

いくら言い訳しても犯罪に加担したことに変わりなく、決して許してはもらえないこともよくわかりました。

それでも、このようなことを言い続ける人をニュースで見ることがあります。そんな人にも子どもの時があったはずです。おそらく、子どもの時から言い訳ばかりをし、それを正す機会を失ってきたのではないかと思うと、哀れにも感じます。

子どもたちは成長の途中です。時には間違えます。だからよくないことは教え、諭し、正し、改める必要が出てきます。

「ちょっと遅れても」「少しくらいしゃべってもいいよね」「〇〇ちゃんをちょっと困らせるくらいなら」「自分だけじゃなかさ」「わざとじゃない」「〇〇が悪い」…。

言い訳、言い逃れ、責任転嫁。すべて大人の世界では通じない、または受け入れられにくいことではないでしょうか。子どもの延長線上に大人がいるということをふまえると子どもの時から機を逃さない大人の介入は必要だと思います。

「過ちを改めざること、これを過ちという」という格言があります。間違ったことをそのままにしていることこそが一番の間違いであるという意味です。

あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→



読書

先日、学校評価アンケートを実施したところ最も評価が低かったのが「私は、学校や家で読書をよくしている」という子どもたちへの質問項目でした。

平均値が 2.87 (満点 4)、4～1 の自己評価で 2 (あまりあてはまらない) が 35 人、1 (まったくあてはまらない) が 18 人で、2 と 1 をあわせると約 36% が読書に何かしらのハードルをもっていることが垣間見えました。

しかし、子どもたちが素直に回答してくれたことは、とてもいいことだと思います。ここから読書に子どもたちが関心をもって取り組める手立てを試行錯誤することができるところです。

そこで、今回は読書について綴ってみたいと思います。

2022 年のある調査では小学生の約 49% が平日の読書時間が「0 分」、平均読書時間は約 15 分という結果だったそうです。また、小・中・高と学年が上がるにつれて読書時間 0 分の割合は増え、中学生では約 53%、高校生では 60% を超えているそうです。

たしかに中高校生は部活動やその他に費やす時間も増えてくるかと思いますが。しかしながら、スマホの使用時間が 1 日 3 時間以上の割合は小学生では約 20%、中高校生は 30% を超えるという調査結果もあります。決して読書の時間がまったくないというわけでもなさそうです。

読書の一番の効果を私は「想像力を伸ばすこと」だと考えます。本は、文字情報からその場面を想像しながら読まないといけません。絵本であってもその場面のすべてを表現してあるわけではないと思います。この言葉は誰が言っているのか、どんな感じで言っているのか、挿絵がなければ、登場人物の顔まで想像しないといけません。

現実世界での想像力は、相手の気持ちを慮ることや次に起こりそうなことを見通す力として望ましい社会の形成に役立つ力となります。

昨今の様々な事件や事故のニュースを見るたびに想像力の欠如ではないかと思うことがあります。何も読書ばかりが想像力を向上させるものではないかと思いますが、その一端は担えるのではとも思います。

梅雨明けまではもう少しかもしれません。外に出られない日は読書もいいかと思えます。

あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→

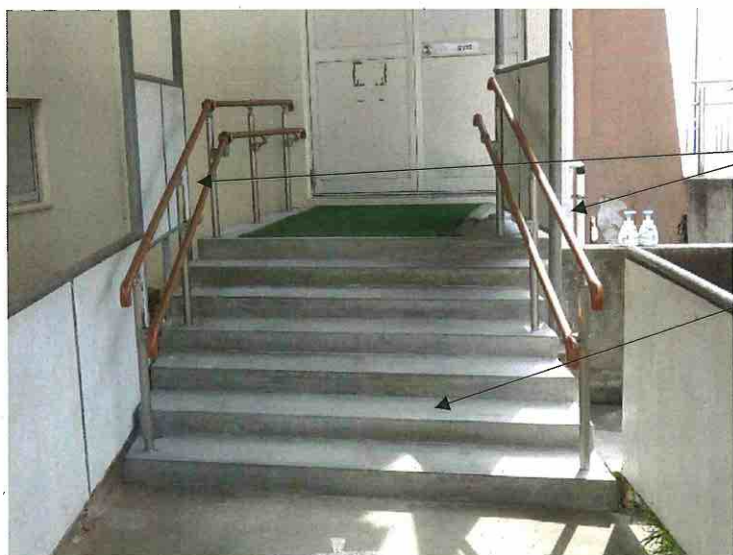


リニューアル

体育館通路の階段の段差を緩やかにしました。子どもたちにとって少々段差が高く、上り下りがしにくいこともあり、年度当初に改修をお願いしていたところでした。

工事開始と同時に梅雨に入り、雨続きでしたが工事をしてくださった皆様の献身的な作業のお陰で、手すりまでつけてくださりました。

この体育館を使うのは新校舎が建つまでと短い期間ですが、子どもたちが少しでも安全に、使いやすくなればと思います。



手すりが付き、安全性が増しました。

段差が緩やかになり、上り下りがずいぶんしやすくなりました。

田植え体験

6月17日(火)に発雷のため延期していた赤米の田植え体験を5年生が行いました。5年生は先日、牡蠣の種付け体験も行わせていただいたところです。5年生の社会科の学習では農業や漁業をはじめとした日本の産業の学習があります。このような体験活動を通して我が国の産業についてより深く学んでほしいと思います。

また、昨今ではこのような体験活動を行える学校が少なくなっている現状もあります。小長井小の子どもたちは、体験の場を提供してくださる事業所や地域の皆様の協力をいただける環境にあり、大変ありがたいと思います。

あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→



新型ゲーム・情報機器

今月上旬、人気ゲーム機の後継機が発売となり、そのニュースがテレビで流れていました。予約抽選に当選した人たちがワクワクを抑えきれないといった感じでインタビューに答えられていました。

その中に、あるお母さんが子どもたちのためにと購入しに来られてました。また、そのゲーム機を手にした子どもたちが大喜びする姿も映し出されていきました。

ゲーム機を買うのも、それで遊ぶのも、それは各家庭の自由です。しかし、職業柄そのような映像を見て、「うちの子がゲームにはまってしまい、どうしたらいいですか」というような相談を学校にされることにならないかなあ…と懸念してしまいました。

また、情報機器（スマホやタブレット）を子どもに与えることも同様です。20 年近く前（学校にパソコンが導入された頃）情報機器に関する研修会に参加した時、「子どもたちがインターネットの世界に入るといことは、無免許で自動車を運転するようなものだから、十分な指導が必要です」という主旨のことを言われたのを覚えています。当時ですらそのような危機感があったのですから、現在はなおさらでしょう。

便利だから、子どもが欲しいというから、〇〇のご褒美に…。情報端末を子どもに与える理由は様々かも知れません。しかし、利便性や楽しさと同時にその裏に潜む危険性を大人は理解しておかないといけないと思います。

特に子どもたちどうしの SNS トラブルは、全国的に増加の一途をたどっています。言葉によるコミュニケーションは、発達途中の小中学生では顔を合わせない文字だけのやり取りでコミュニケーションをとること自体ハードルが高いのです。また、情報端末を介した犯罪に巻き込まれることも珍しくなくなってきました。「不審者は町にではなく、インターネットにいる」とも言われています。

しかしながら、子どもたちが情報機器に全く触れない世界というのも考えづらいものになっています。学校では各教科や道徳科、日頃の生活指導等を通じ、「言葉の正しい使い方」「相手の気持ちを考える」「情報モラル」「調べ活動を通じたネットの正しい活用」などを行っています。このような学習が子どもたちの健全な情報機器活用につながるよう努めているところです。

あとひと月ほどで夏休みに入ります。お子様のゲームや情報機器の使い方については、保護者の皆様の管理監督を十分行っていただきますようよろしくお願いいたします。

あおなみ-Blue Wave-

学校ホームページはこちらから→



教育週間

5 月下旬から 7 月上旬の 1 週間は、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」として県下の全小中学校が「〇〇っ子の心を見つめる教育週間（〇〇は学校名）」として、「命を大切にし、豊かな心を育てる」ことを大きなめあてとした取組を行っています。

小長井小でも 6 月 9 日～6 月 13 日に「小長井っ子の心を見つめる教育週間」として、道徳の公開授業や学校開放、なかよしアンケートに基づく子ども一人一人の面談、校長講話などを通じ、命の大切さや豊かな心についていつも以上に学ぶ機会を設けました。ここでは 6 月 9 日行った校長講話の概要を紹介いたします。ご家庭や地域でも子どもたちの命を大切にし、豊かな心を育む一助になれば幸いです。

【校長講話概要】

長崎県では 2003 年、2004 年に子どもの命に係わる大きな出来事があり、このことから子どもたちの「命を大切にし、豊かな心を育てる」ことを大きなめあてとして「長崎っ子の心を見つめる教育週間」の取組が進められていること。

自分につながるたくさんの命があったからこそ、自分の命があること。それは他人も同様であり、自分や他の人の体や心を傷つけることは自分や他の人の家族やつなげてきた命を傷つけることであること。だから、絶対自分も他の人も傷つけてはいけないこと。

豊かな心とは、言動に表れること。誰かを傷つけるような言葉や態度、場の雰囲気を壊すような発言や態度の人を決して豊かな心の持ち主とは言わないこと。

4 月からの人への関わり方について、人の体や心を傷つけていないか自省してほしいこと。特にいじめについては「いじめ防止対策推進法」という法律があり、「いじめをしてはいけない」と決められていること。

「こ・な・が・い」のうちの「なかま」を大切にすることが命を大切にすること、豊かな心を育てることにつながる。

低学年には少し難しい言い回しになってしまったところもあったかもしれませんが、自分も他人も大切にすることを子どもたち自身が振り返り、学ぶきっかけになってくれたらと思います。



1 学期の折り返し

6 月に入りました。夏休みまで土日を除くと、登校回数は 35 回です。これを多いと感じるか少ないと感じるかは様々かと思います。

ただ、4 月と 5 月の登校回数が 33 回であることを考えると、1 学期の折り返しの時期とも言えます。

4 月当初に子どもたちはそれぞれに今年度の個人のめあてや学級のめあてを立てていると思います。それがどの程度達成できているかを振り返ることで、自分の現在地を確認できると思います。

学校としても、6 月 9 日（月）～13 日（金）の間に学校評価アンケートを実施予定です。2 か月余りではありますが、統合後の本校の成果と課題を見取り、今後の学校運営に生かしていきたいと思っています。

水無月

日本では、1 月を睦月（むつき）、2 月を如月（きさらぎ）と言い表すことがあります。では、6 月はというと、水無月（みなづき）と言い表されます。

梅雨の時期でもあり、水が有ることの方が多いと思いますが、なぜか水が無い月と表現されます。

いくつか説があり、雨がたくさん降って、天に水が無くなってしまう月という説や、「無」は元々「の」という読みがあてられ、水無月を「みずのつき」と読み、田んぼに水を引き入れる月という意味であったという説があるそうです。

私たちの身の回りには何気に使っている言葉がありますが、その由来を紐解くとおもしろい発見にたどり着くことがあります。

学年が上がるにつれて、自主学習の課題が出ている学年もあります。何か特別なことでなくても自主学習の題材は意外と身の回りにあるのかなと思います。

水泳指導

今月から水泳指導が始まります。比較的多くの子どもたちは水泳の時間を楽しみしていることが多いと思います。しかし、水の中は普段と勝手が違うこともあります。安全に十分留意して指導を行います。子どもたちにも水泳を行う上での約束をしっかりと守って水泳を行ってほしいと思います。



運動会参観ありがとうございました

天気の崩れが心配された運動会でしたが、大きな事故等もなく無事終えることができました。子どもたちの運動会を楽しみ、いきいきとした競技や演技、担当する役割や係への責任あるがんばりが随所に見られたのではないのでしょうか。そして、子どもたちは参観くださった皆様の温かい声援や拍手の中、練習の成果を精一杯披露し、自信につながったことと思います。

さて、体育や音楽、図工等の技能系の教科は得手不得手が比較的表れやすい教科です。ことさら体育は、順位がはっきりと付きやすい教科でもあります。そして運動会はこの体育の要素が顕著である行事であることはいまでもありません。

中には運動会が憂鬱な子もいたかもしれません。しかし、運動会がただの競技会ではなく、学校の教育活動の一環であるからこそ、運動の得手不得手だけでなく取り組む姿勢や自分の役割への責任など、技能以外の要素が重要視されるのです。

一方、統合後初の運動会ということで、プログラム編成や駐車場所の確保、テントの設置位置等、試行錯誤での準備でした。今年度の振り返りを今後の運動会や義務教育学校での運動会（体育大会）に生かさないといけないと思っています。

落ち着ける時期になります

4月の始業式（1年生にとっては入学式）から運動会まで年度当初は様々な行事で忙しい日が続きます。

しかし、運動会が終わると、教育週間やプール開きはあるものの全校的に大きな行事はなく、時期としては比較的落ち着ける時期になります。

ここでいう落ち着ける時期とは、授業の時間が行事等の準備に費やされることが少なく、授業が進めやすくなる時期ということです。また、行事等の準備で充てていた時間を取り戻す時期でもあります。

言い換えると子どもたちにとって学習に集中しやすい時期だということです。学習を通して、将来の社会を生きていくうえで必要となる知識や技能、物事をしっかり考える力や新しい物事を紡ぎだす創造力など様々な『学力』を習得するのにいい時期になります。

行事というめあてはないかもしれませんが、自分の力をつける、伸ばすというめあてをもって、日々の生活に臨んでほしいと思います。



地域の皆様に支えられています

5 月 14 日（水）に 5 年生の牡蠣の種付け体験、2 年生の野菜の苗植えを行いました。それぞれ、5 年生は漁業関係者の皆様、2 年生は J A の皆様に指導いただき、充実した活動ができました。

5 年生はロープに牡蠣の種を 10 個ずつ取りつけ、その後、海に出て牡蠣棚に吊るしました。初めての体験でしたが、ご指導の甲斐あって無事体験を終えることができました。小長井町の特産の一つである牡蠣を通して、「ふるさと小長井」を思う気持ちを一層高めてほしいと思います。

2 年生はキュウリやナスなどの夏野菜の苗を J A の皆様と植えました。好きな野菜を言いながら楽しく植えている様子が見られました。今回の活動を通して野菜をますます好きになってくれるものと思います。

牡蠣も夏野菜も生き物です。今回の体験以降も育てていかないとはいけません。牡蠣は小学生には専門性が高く、漁業関係者の皆様の支援を収穫までいただくことになることを子どもたちには知っておいてほしいと思います。どのような手間がかかるのか、どのような思いで牡蠣を育てていращやるのかを学習していくこととなります。夏野菜は、2 年生の生活科の時間を中心に、自分たちで育てていくこととなります。水をあげたり、虫がついていないか見たりすることもあると思います。自分たちが手間をかけて育てる喜びや農作物を育てていращやる方々への感謝などをもてるといいと思います。

また、時期はまだ先ですが、赤米の田植えや収穫にも小長井支所をはじめ関係各所の支援をいただく予定です。

さらに、朝からは駐在所や交通指導員の皆様が子どもたちの登校に係る交通安全見守りをいただいています。

このように、小長井小の子どもたちは、たくさんの地域の方々のお力を貸していただいて充実した学校生活を送ることができています。

子どもたちにも地域の方との様々な活動を通して、地域を知り、地域にできることは何かを学ばせていきたいと思っています。